

令和元年度 第3回経営協議会議事要旨

日時 令和2年1月20日(月) 14時00分～15時29分
場所 大会議室
出席者 (学外委員) 井田委員, 大平委員, 潮谷委員, 陣内委員, 菅谷委員,
戸上委員, 中尾委員, 山口委員
(学内委員) 兒玉学長, 渡委員, 山下委員(理事), 寺本委員,
早瀬委員, 山崎委員, 山下委員(病院長)
欠席者 なし
陪席者 吉田理事, 佐々木監事, 北村監事, 板橋教育学部長, 小坂芸術地域
デザイン学部長, 中村経済学部長, 末岡医学部長, 豊田理工学部長,
小林農学部長, 西郡学長企画室長

- ・ 学長から, 令和元年度第2回経営協議会の議事要旨の確認について依頼があった。

【 審議事項 】

- (1) 国立大学法人佐賀大学の中期目標・中期計画の変更について
学長から, 文部科学省より地域の医師確保等の観点から認められた令和2年度及び令和3年度における医学部医学科の入学定員5名増加に伴い, 中期計画の別表を変更するため, 文部科学省へ変更の認可申請を行う旨の説明があり, 審議の結果, 了承された。
- (2) 令和元年度第1次国立大学法人佐賀大学補正予算(案)について
財務課長から, 予算執行上の諸課題に係る対応及び文部科学省より追加交付された運営費交付金に係る所要の補正等, 令和元年度予算について収入・支出見込に変更を行う必要が生じたため, 補正予算を編成する旨の説明があり, 審議の結果, 了承された。
- (3) 令和2年度国立大学法人佐賀大学予算編成の基本方針(案)について
財務部長から, 基本方針は「令和2年度予算編成の基本的な考え方」等の4つの章に区分して構成されている旨, 運営費交付金の配分指標等に係る記載内容の説明があり, 審議の結果, 了承された。
潮谷委員から, 基本方針に記載のある附属病院の再整備について, 在宅医療への支援の考え方の確認があり, 山下委員(病院長)及び医学部長から, 本学の基本的な考え方等の説明があった。
潮谷委員から, 基本方針に記載のある科研費受入実績について, 学部別の受入実績に対する評価の確認があり, 寺本理事から, 学部の動向を把握しており, 申請率等の達成状況により評価反映経費を付与する等の説明があった。
- (4) その他
特になし。

【 報告事項 】

- (1) 平成30年度に係る業務の実績に関する評価の結果について
企画評価課長から、項目別評価として、業務運営の改善及び効率化等の4項目すべてで「順調」と評価された旨、第3期中期目標期間における国立大学法人評価委員会が「注目される」とした佐賀大学の取組等の説明があった。
- (2) 令和2年度国立大学法人運営費交付金予定額（政府案）等の概要について
財務部長から、国立大学関係予算（案）の概要について、運営費交付金における「成果を中心とする実績状況に基づく配分」等の説明があり、次いで、企画管理課長から、施設整備費要求事項について、総合分析実験センター改修等、本学の採択事業の説明があった。
- (3) 財務レポート2019について
財務課長から、平成29事業年度の財務諸表及び事業報告書等に基づき本学の財務状況や事業活動を説明する資料として財務レポートを作成し、HPで公開している旨、今年度より新たに学部等の支出額概要を記載している旨の説明があった。
- (4) その他
特になし。

【 意見交換 】

○佐賀大学の入試改革の現状について

学長から、大学入試における英語資格・検定試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」及び大学入学共通テストの記述式問題の導入見送りが決定した中で、改めて佐賀大学の入試改革を説明し、ご意見をいただきたい旨の説明があり、次いで、西郡学長企画室長から、佐賀大学独自の民間試験活用制度等の説明があり、その後意見交換が行われた。

主な意見は以下のとおり

- ・ 佐賀大学版CBTは佐賀大学が開発したものか、傾向分析は可能か。
→地元企業と共同開発したもので、傾向分析について、機能としては持ち合わせていないが、データは蓄積するため、分析は可能である。

○佐賀大学のこれから～ビジョン2030～（案）について

学長から、第5期以降を見据え、第4期中期目標・計画を定めるため、時代の変化に対応し、佐賀大学を発展させるために必要なことを佐賀大学のこれから～ビジョン2030～（案）として策定中であり、学外向けに分かりやすくしたのも策定予定であるため、ご意見をいただきたい旨の説明があり、次いで、西郡学長企画室長から、ビジョンの構成等の説明があり、その後意見交換が行われた。

主な意見は以下のとおり

- ・ 「佐賀大学」を他大学名に変えても成立するような内容であるため、もっと佐賀だからこそその内容を盛り込んでみてはどうか。
- ・ 佐賀大学全体でなくても、インパクトのある特色が1つあれば、他学部の事業でも十分誇ることができる。ビジョンにあることを全部やろうとすると10年かけても達成することは厳しいと思われるため、一点突破で全学部が協力するようなものに具体的に絞ってみてはどうか。

以 上